税でつながる幸せ

学校法人関東国際学園　関東国際高等学校　２年
井口　愛絢

私は今年の春休みにカンボジアの孤児院にボランティアをしに行った。そこには、赤ちゃんから、私と同じくらいの年齢の子どもたちがいた。彼らは、戦争や病気で家族を失ったり、経済的な理由で、家族と一緒に暮らすことができないという状況に置かれていた。私は、彼らの住む場所のあまり綺麗とは言えない水や、教育の不足に驚いた。そして、自分がどれだけ恵まれた環境で暮らせていることの幸せを実感し、今後の生活や価値観を見直すきっかけになった。

それでは、なぜ私がこんなにも恵まれた環境で生活できているのか。それは、税金という制度があるからである。税金によって、綺麗な水道水を直接飲むことができたり、必要な医療サービスを本来の価格よりも安く、あるいは無償で受けることができる。実際に、私の祖母の医療費を税金に賄ってもらったため、入院費だけで済むことができた。きっと税金が無かったら、介護と費用のことでとても大変だったと思う。私たち家族が少しでも楽に介護をすることができたのは税金のおかげだ。

さらに、税金は校舎や教科書に使用されている。一方で、カンボジアでは、教科書や校舎が不足していることが、質の良い教育を受けることができない一つの要因になっている。私たちが快適な環境で、質の良い教育を受けることができているのは、様々な人々が国に納めてくれた税金によるものだ。私はこのように、学ぶ環境や安全で恵まれた生活を与えてくれている税金、そして税金を納めてくれている様々な人に感謝したいと思う。

また、この作文を書くにあたり、税金について調べていると、日本では国の歳出総額の0.4パーセントにあたる5114億円がカンボジアなどの発展途上国に提供され、自立を支援していることを知った。自分たちが納めた税金が日本だけでなく、世界の人々にも役立っていることを知り、とても嬉しい気持ちになった。だが、日本の財政も危機的状況にあるため、支援金は限られてくる。発展途上国は支援が無くても自立していけるよう、日本は支援の質を上げていくことが大切だと思う。

私は将来、貧困の国の自立を手助けしたいと思っている。それは、現地に行って活動したり、募金という形でしか手助けをすることができないと思っていたけれど、納税をすることも役に立つことができることを知った。日本の人々だけでなく、海外の人々も誰もが平等に、恵まれた安全な生活ができるようにきちんと納税をし、未来のより良い世界の実現に繋げていきたいと思った。